

第30回 三番瀬再生会議の開催結果概要

1 日 時 平成22年6月30日（水）午後5時30分～午後8時35分

2 場 所 船橋市西部公民館講堂

3 出席者数 委員19名 オブザーバー7名

4 参加人数 87名

5 結果概要

(1) 開 会

開会にあたり、千葉県総合企画部・赤塚理事からあいさつがあった。

(2) 議 事

議事に入る前に、大西会長から以下の点について確認し、了承された。

- ・委員あるいはオブザーバーから、委員のほうに参考資料を渡したいという申出について、内容が三番瀬再生会議の議論に直接関係ないもの、個人や団体を誹謗中傷する内容のもの、あまり大量なものは遠慮してもらい、問題がないものは配付を認めたい。

ア 議題1 第28回及び第29回再生会議の結果について

資料1に基づき、事務局から概要の説明があった。

イ 議題2 三番瀬関連委員会の開催状況について

資料2に基づき、大西会長から概要を報告された。

ウ 議題3 平成21年度三番瀬再生事業の実施結果の概要及び平成22年度の実施方法等について

資料3～5により、事務局から説明があった。

主な意見等は次のとおり。

- ・前回、知事の挨拶の中に「4市がしっかり英知を集め」というのがあるが、そういう場は設けられているのか。どのくらいの頻度なのか。

【県の回答】4市と県とで、色々な行政的な関係について協議・打合せをする場を設けており、この4月から概ね月1回程度のペースで打合せをしている。

- ・第1次事業計画の計画期間の最終年度が平成22年度である。事業計画の仕上げをしなければならぬ年度であるということで、これまでの達成状況を見ると、市川護岸以外の部分について、目に見えるような形で成果が出ていない。特に、ソフト面の事業の具体的な成果を上げるようお願いしたい。

- ・「三番瀬関連委員会の開催状況」を、漁場再生検討委員会も含めて、三番瀬のホームページからわかるようにしてほしい。例えば漁場再生検討委員会の中で漁港の整備計画の検討状況など関連するものについては、できるだけ資料としてほしい。

【県の回答】ソフト面の事業で、パスポートは昨年も実証試験でスタンプラリーなどを実施した。引き続き22年度も進展のない部分については検討を進めていきたい。ホームページで検討委員会の開催状況は極力載せる形で対応し、三番瀬再生計画に関連する内容のものについてはできる限り報告させていただきたい。

- ・資料3の8ページに下水高度処理水の還元放流が取り上げられているが、この評価を公表してほしい。会議の中でデータを出してもらいたい。

【県の回答】水質の調査を実施してモニタリングしているところであり、資料の内容を検討したうえで、決めていきたい。

- ・資料3の4ページ「3 藻場の造成試験」のところで、これまでは夏の高水温とか透明度の低下でアマモを移植しても枯死してしまうということで、毎年移植する必要があるという整理だった。20年度移植群の一部が21年度に越夏したのは水温の違いが大きいのか、あるいは透明度か、そういったほかの要因などもあると考えているのか。

【県の回答】アマモは28℃以上の水温が長く続くと枯れることが多い。21年度は28℃を超える日数が例年に比べて少なかったことが理由だと考えている。

- ・具体的な水質調査はどういうふうに行っているのか。海老川に導水を入れることによって三番瀬の状況がどう変わったのか。塩素は測っていない。県はどういう指導をしているのか。

【県の回答】今回こちらで測定しているのが下水道事業の水を放流したことによる影響を測るということで、具体的な調査項目については、今後、調査結果等を公表する際にお答えすることができるかと思う。

◎会長まとめ（議題1～3）

- ・十分に答えてなかった部分もあるので、整理をしてもらいたい。伝達の仕方について

は、ホームページ等で補足してもらいたい。

- ・再生事業の進め方については、事業計画の最終年度には進んでいない事業があるので、事業計画の点検も含めて整理してほしい。
- ・評価委員会への指示事項は、以下のとおり。
 - ①昨年度実施した三番瀬自然環境調査結果に基づき、藻類、付着生物、中層大型底生生物を対象とした評価
 - ②現状と変化傾向を把握するための三番瀬自然環境の総合解析
 - ③市川塩浜護岸改修事業に伴う影響のモニタリング結果及びモニタリング計画についての評価

エ 議題4 ワーキンググループの検討結果について

- ①「ラムサール条約」ワーキンググループの検討結果について、資料6に基づき、倉阪委員が報告された。
- ②「江戸川放水路」ワーキンググループの検討結果について、資料7に基づき、清野委員に代わって事務局から報告した。
- ③「グランドデザイン」ワーキンググループの検討結果について、資料8に基づき、吉田副会長が報告された。

①「ラムサール条約」について 主な意見は、次のとおり。

- ・【大西会長】ラムサール条約については、2010年度中に三番瀬全体での登録を目指すために努力をするとともに、これが困難である場合は船橋地域の登録を目指すということに対し、県の考えを聞きたい。

【県の回答】ラムサール条約について2012年の登録を目指すということで、環境省と相談しながら地元の調整を進めてきている。「早期登録を望む」声の一方で、「登録はまだ時期尚早である」という声もある。これらが今年度中にこの調整がつく見通しは極めて困難な状況だと考えている。

- ・【大西会長】反対している人はいないのではないかと指摘もあった。また、船橋地域については漁業者が既に決議しているということなので、先行的に登録する提案についてはどうか。

【県の回答】反対というより、ラムサールに登録するより先にやることがあるという意見がある。船橋海域についての登録は、この会議の中で結論が得られ

ば、県としても改めて研究をしていきたい。

- ・早期登録を望む声がやっぱり多いだろうと思う。多分、反対するのは漁業関係者かなと見ている。
- ・消極的賛成という立場だ。護岸もいじっているし、これから漁港もつくらなきゃならない。船橋周辺でラムサール条約が取れば、それはベターだと思うが、一体としてはちょっと無理ではないか。
- ・これから開発計画があるようなところははずして設定すればいいので、ちゃんと丁寧に説明すればわかっていただけるのではないか。
- ・積極的な反対はまだ一人もいない。ラムサール早期実現のためには今年度中にできれば本当に合意形成、それができなくても船橋側ということで、鳥の立場から言うと何も問題ないと思う。
- ・(県の回答の中で) 先にやることがあると言うのは具体的に何なのか。

【市川市の回答】まちづくり懇談会でのラムサールについての議論の中では、再生ができた後、あるいは再生の目途が立った時点でやればよいという考え方だった。今の状態がいいのだからむしろ触るべきでないという方たちもいるので、慌てて指定されては困るという考え方が大勢を占めた。自然と漁場の改善が前提だと考えている。

- ・漁業に影響がないのか、懸念を払拭するような説明が重要だ。海や漁場を豊かなものにできるのだということを見せていかない限り、全漁協が納得して登録ということとはできないと思う。
- ・漁業の立場としては、いくら稼げるかということが最大の課題だ。安全・安心ということでは、海域環境がいいことを知ってもらう手段として、ラムサール登録というのはかなり有効ではないか。世界のブランドだから。地域の発展にもなる。お金のない時代に一番いい方法だ。
- ・漁業の振興とかまちづくりまで全部含めたラムサールのメリットを出すようなプラットフォーム、関係各課全部含めた登録推進チームのようなものをつくり、総合的な視点で努力をしていただきたいと思う。
- ・市川市だけ逆に取り残されてかなりデメリットがあるのではないか。市川市においても、登録しないことによるデメリットを真摯に整理し、ラムサールに登録することが再生にとっても弾みになるというふうに考えてもらいたい。

◎会長まとめ（議題4の①）

- ・ワーキンググループの結論については、皆さん「反対」ということはない。再生会議としてこの結論を確認したい。
- ・プラットフォームをつくって総合的な施策としてラムサール条約の登録推進を図っていくということで取りまとめとする。

②「江戸川放水路」について 主な意見は、次のとおり。

- ・堰にこだわらず、当面としてバイパスを作るとか、グリーンベルトを作っていく、魚つき林みたいなものを作っていく。そんなアイデアを各市全員で出してやっていったほうがいい。
- ・三番瀬の成り立ちというのは、川から土砂が出て、それが堆積されて肥沃な土地になっているわけで、今、河川からの土砂の補給が全くない。そういう点でもバイパスができればいいと感じる。

安定した漁場、あるいは安定した環境、あるいは安定した生物多様性を考えるのだったら、やはり河川の水を多少プラスするようしてもらいたい。食糧資源をどうするとか、あるいは生活環境をどうするとか、そういう面で考えれば、もう少し改善してもらえないか。

- ・江戸川放水路のワーキンググループで「短期、中期、長期」と書いてあるが、これはどのくらいの時間的シェアを考えて名付けているのかというのを明らかにしていただきたい。ランドデザインの「短期、中期、長期」とかなり違う。
- ・エスチュアリー循環というものは絶対にメリットはある。川の水が流れる水量の10倍の水が周辺の海域で動くようになる。そうすると、いま問題になっている「海水の流動が止まっている、それが海域に悪い影響を与えている」という部分の回復にかなり寄与する。通常時に水を流すということの意味はそういったこともあると思う。
- ・可動堰で流すことの意味というのは、弾力的な運用さえすれば、水利権の問題だっでできないことではないと思う。

水が動くということをまずやらなければいけないのと、汽水域が三番瀬にないというのは一番問題だ。バイパスでもいいから早目に知恵を出して考えたほうがいい。

- ・【会場からの意見】江戸川区では淡水をたくさん入れている。江戸川区が積極的に関与したからだ。千葉県でも積極的に関与する意思を持ってほしい。

◎会長まとめ（議題4の②）

- ・二つ大きな問題がある。洪水時に大きな被害が出ることと、水循環の問題だ。
- ・まだ問題提起型のところもあるので、この江戸川放水路についてさらにどういうふうに取り組んでいくか。体制について考えていきたい。

③「グランドデザイン」について 主な意見は、次のとおり。

- ・【大西会長】グランドデザインの報告については、特にロードマップが整理されていて、目標を短期、中期、長期と分けて、道筋をつけていただいているという点が非常に重要だ。円卓会議のレポートから7年ぐらい、基本計画からは4年ぐらい経っているので、新しい格好でまとめるということも節目では必要だと思っている。目標生物を特定していくということも含まれており、非常に重要なことではないか。
- ・時間軸の名付け方で、短期・長期ではなく、例えば2020年目標、2050年目標というような形で書いたほうがいい。
- ・今年中に再生会議の下で詰めて、グランドデザインにそったロードマップや重点施策を次期の事業計画に反映させるよう、ラムサールや放水路も含めて総合的に検討する体制を作してほしい。
- ・グランドデザインの中に、都市と三番瀬ということにもう少し入っていてもいいのではないか。
- ・パブリックアクセスをどうするのか、どういうふうにやっていったら三番瀬全体が繋がっていくかという議論は、早急に詰めていく必要があると思う。
- ・水循環というと、海の中での流れだけではなく、雨から川に行ったり海に行ったりというところも重要だと思う。そうすると三番瀬のその場や沿岸の市町村だけにとどまらず、流域や流域外の県民も取り込む内容を入れてほしいと思う。
- ・【会場からの意見】よくよく検討して地域区分を考えてほしい。手をつけない自然もやっぱり大切にしておかなくてはいけないと思う。

◎会長まとめ（議題4の③）

- ・グランドデザインの中で基本計画にない点を特に重視して、お互いが補完関係に立つというグランドデザインの狙いを明確にして、その狙いに沿ってまとめることが必要だ。既存の計画との関係でグランドデザインの意義を整理しつつ取りまとめて

いく必要がある。

- ・具体的には、三番瀬の目標をわかりやすく、あるいは具体的な生物指標などを入れて示し、各地域についても事業の進捗を踏まえて整理していくことが必要になっている。時間軸ということもロードマップなどをつくっていく上で重要になってくる。もう一步進めて今年取りまとめるということで作業を進めていきたいと思う。
- ・吉田副会長と事務局に協力してもらい、次の会議では一步進んだ格好で提案していただき、あと2回の会議の中でぜひまとめるという方向で進めていきたいと思う。

オ 議題（その他）今後の進め方について 主な意見は次のとおり。

- ・ランドデザインについて、ワーキンググループをつくって報告をまとめたわけだが、今後これをどう進めるのか。今後継続的に発展的に進めるために、ワーキンググループを常置委員会として設置していただきたい。
- ・【大西会長】長期的・恒常的な常置委員会を設定するのがいいかどうかについては、皆さんの意見も聞かなくてはならない。案を少し整理して、どういうふうに進めていくのか、準備してもらいたいと思う。
- ・ラムサールについても、9月までに継続的にワーキンググループを必要に応じて開催したい。
- ・【大西会長】ワーキンググループの方の負担もあって一応今日の報告で一区切りして、取りまとめの3人の方にそこは中心になって考えていただき、私に相談してもらいたい。
- ・ランドデザインについて、漁業関係の別の会議もある。時間軸やゾーニングの整合性をとってもらう必要がある。
- ・ラムサール条約のところで三番瀬全体ということでは、行徳湿地も一緒ということなので、そこも念頭に入れておいてほしい。

◎会長まとめ（その他）

- ・取りまとめ委員に引き続きご負担をかけるが、よろしくお願ひしたい。

(3) 報告事項

報告事項 1 三番瀬再生支援事業の実施結果について

報告事項 2 市川泊地・航路の維持浚渫工事について

報告事項3 東京湾における水質などの連続観測の実施について

報告事項1から3までについて、資料9から11までに基づき事務局から報告があった。

(4) その他

事務局から、次回の三番瀬再生会議の開催について連絡があった。

(5) 閉会

以 上